

めぐみイエス・キリスト教会

2025年3月9日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第749号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌420「雨を降り注ぎ」 p. 676

【交読文】 No.52 ルカの福音書1章(抜粋) p. 921

【賛美Ⅱ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」p. 150

【使徒信条】 【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル新曲「神様は」

【聖書朗読】 ルカの福音書8章49節～56節 (p. 130上段右)

【礼拝説教】 《ヤイロの娘の生き返り》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1. マルコの福音書における平行記事から

※マルコの福音書5章35節～43節「タリタ、クム(クミ)」(新約p.75下段)

5:35 イエスがまだ話しておられるとき、会堂司の家から人々が来て言った。「お嬢さんは亡くなりました。これ以上、先生を煩わすことがあるでしょうか。」

5:36 イエスはその話をそばで聞き、会堂司に言われた。「恐れなくて、ただ信じていなさい。」

5:37 イエスは、ペテロとヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれも自分と一緒に行くのをお許しにならなかった。

5:38 彼らは会堂司の家に着いた。イエスは、人々が取り乱して、大声で泣いたりわめいたりしているのを見て、

5:39 中に入って、彼らにこう言われた。「どうして取り乱したり、泣いたりしているのですか。その子は死んだのではありません。眠ってい

るのです。」

5:40 人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスは皆を外に出し、子どもの父と母と、ご自分の供の者たちだけを連れて、その子のいるところに入って行かれた。

5:41 そして、子どもの手を取って言われた。「タリタ、クム。」訳すと、「少女よ、あなたに言う。起きなさい」という意味である。

5:42 すると、少女はすぐに起き上がり、歩き始めた。彼女は十二歳であった。それを見るや、人々は口もきけないほどに驚いた。

5:43 イエスは、このことをだれにも知らせないようにと厳しくお命じになり、また、少女に食べ物を与えるように言われた。

●ポイント2. 会堂司ヤイロが見た最初の奇跡とは？

※マルコの福音書3章1節～5節「カペナウムの会堂」(新約p.69下段)

3:1 イエスは再び会堂に入られた。そこに片手の萎えた人がいた。

3:2 人々は、イエスがこの人を安息日に治すかどうか、じっと見ていた。イエスを訴えるためであった。

3:3 イエスは、片手の萎えたその人に言われた。「真ん中に立ちなさい。」

3:4 それから彼らに言われた。「安息日に律法にかなっているのは、善を行うことですか、それとも悪を行うことですか。いのちを救うことですか、それとも殺すことですか。」彼らは黙っていた。

3:5 イエスは怒って彼らを見回し、その心の頑なさを嘆き悲しみながら、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。彼が手を伸ばすと、手は元どおりになった。

●ポイント3. 私たちが信じ、信頼するお方とは？

※ローマ人への手紙9章33節「パウロの勧めから」(新約p.313下段)

9:33 「見よ、私はシオンに、つまずきの石、妨げの岩を置く。この方に信頼する者は失望させられることがない」と書いてあるとおりです。

◎先週のメッセージ【長血をわずらった女性】

《さて、主イエスと十二弟子たちは、ガリラヤ湖の向こう岸からカペナウムに戻って来ました。すると多くの群衆がすでに集まっていました。

群衆は皆、主イエスを待ち望んでいました。なぜなら、カペナウムのユダヤ人の会堂司であるヤイロが、主を捜していたからです。「私の小さい娘が死にかけています。娘が救われて生きられるように、どうかおいでになって、娘の上に手を置いてやって下さい。」

そこで、主イエスはヤイロと一緒に向かわれました。すると群衆が主について来て押し迫ったのです。その時、そこに、十二年の間、長血をわずらっている女の人が後ろから、主イエスの衣の房に触れたのです。「あの方の衣にでも触れれば、私は救われる。」すると、すぐに血の源が乾いて、病気が癒やされたことを体を感じたのでした。

主イエスも、自分から力が出て行った事にすぐ気がつき、群衆の中で振り向いて、「誰が私の衣にさわったのですか」と尋ねたのです。

主イエスは周囲を見回して、誰がさわったのかを知ろうとされました。彼女は隠しきれないと知って、震えながら進み出て、主の御前にひれ伏し、主イエスにさわった理由と、ただちに癒やされた次第を、すべての民の前で話しました。すると主は彼女に言われたのです。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。」

いやしと救いの条件として、私たちの態度と信仰に重きがあることが分かります。私たちは、どれほど真剣に主イエスを信じているのでしょうか。またどれほど真剣に、主により頼んでいるのでしょうか。「安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」

これは体のことだけではないのです。私たちの魂の部分も健やかでなければならぬのです。過ぎ去ったことに、もはや苦しむ必要はありません。忘れることであり、赦すことであり、今は恵みによって生かされて、主に守られていることを、心から感謝すべきなのです。》

◎お知らせ

※次回は2025年3月16日午前10時より、通常通り行ないます。